

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年4月21日(金) 午前10時00分 ~ 午前10時48分
開催方法	501会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	(1) 令和5年度外部評価の方向性等について (2) その他
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第 【資料1】「行政評価制度の改善等に関すること」に係る今後の方向性について 【資料2】外部評価実施施策一覧 【資料3】評価対象施策の回答スケジュールについて

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>ChatGPTが話題になっている中、大学でも対話型AIとどのように向き合っていくのかという点について検討が行われている。禁止すべきか、あるいは個人情報に留意しながら活用していくのかなど、対応の在り方が大学によって、異なっている。自治体においても、報道では鳥取県が使用禁止と公表している。戸田市では、先日メディアにも取り上げられていたように、ChatGPTの調査研究チームを立ち上げ、10月には「自治体業務におけるChatGPTの活用ガイド」を作成するとのことである。</p> <p>翻って、戸田市の外部評価委員会は、EBPMのひとつの方向性として、昨年度からロジック・モデルを実装している。また、戸田市は学校教育分野におけるEBPMの推進について、特に先駆的な取組をしていることは、有名な話である。</p> <p>ロジック・モデルについて、政府は、2017年頃からEBPMを推進しており、2020年頃から各省においてもロジック・モデルを政策評価に実装し、現場の活用が始まったところであるが、自治体においては、計画策定や行政評価を行う際にロジック・モデルを導入しているところは少なく、戸田市は、この取組のトップランナーと言える。</p> <p>ただ、ChatGPTやロジック・モデルも、留意すべきは「なんのために使うのか」という点を忘れがちになってしまうことである。ロジック・モデルシートを作成することがゴールになってしまうと行政評価の負担感を感じるだけの単なる文書事務になってしまう。ロジック・モデルを作成する過程で、関係課や住民、事業者と一緒に議論することや「政策の設計図」と言われるロジック・モデルが議論を通じて共有されていくことが重要である。</p> <p>また、ChatGPTとロジック・モデルは、どのような関係性があるのか。要するに、ロジック・モデルを作る際にChatGPTを活用することについては、創造的な取組であるロジック・モデルの議論に馴染むかどうか。あるいは、積極的に活用すべきかどうかという点についても戸田市がどのよ</p>

	<p>うな見解を出すのか、大変楽しみにしている。</p> <p>今年度も引き続き、委員の皆様と議論ができることを楽しみにしている。</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 令和5年度外部評価の方向性等について</p> <p>事務局 資料1に基づき、事務局が説明を行った。</p> <p>委員 課題としては、効果的な事務事業の選定とそれを担当する職員の情熱であると感じている。事務事業の選定や事業の進め方については、ロジック・モデルシートで活用し、確認することができる。</p> <p>一方で、事業を行う部局が外部評価制度をどの程度、理解した上で、取組を進めているのかが、不明である。資料1区分「行政評価制度について」の②に記載されている施策の担当部門と施策全体の推進部門との関係性について、基本的には、施策の担当部門に任せていると回答されているが、施策の推進部門から見て、施策の担当部門の施策を進めていく、やり遂げていくという意志をどのように感じているのか。</p> <p>事務局 施策の担当部門がやり遂げていく意志について、ロジック・モデルシートを例に取り上げると、政策立案における見える化を現在、進めているところであるが、ロジック・モデルシートで上手く表現できていない点も課題の一つである。一方で、施策の推進に係る政策立案の過程やその後の進捗に関して、施策の担当部門では、取り組むべき課題を捉えた中で事業をしっかり推進していくという意志を持って進めている。</p> <p>委員 ロジック・モデルシートの課題に対する今後の方向性については、資料1区分「行政評価制度について」の①や⑤のように仕組みを検討されているようだが、施策を担当する側に対しても何かしらの仕組みがあるのか。例えば、施策の進捗が良い場合は、職員のモチベーションがあがるような処遇を行っていたり、予算や人員を配慮するなどの仕組みがないと職員の負担感だけが増してしまうのではないか。外部評価とは異なる観点と思うが、既に仕組みがあるなら教えていただきたい。</p>
--	--

事務局	<p>そのような仕組みについては、今後、検討していきたい。担当部門任せにならず、そのような仕組み作りは、推進部門の大きな使命である。また、施策の推進部門である企画部門の範囲だけでなく、予算や人員の配慮にもつながるような仕組みも含めて、導入に向け検討していきたい。</p>
委員	<p>今の話に関連する話になるが、研修体制やマニュアルなどは揃っているのか。継続的な研修体制も必要であり、話がでていたインセンティブを与える方法のほかにも、資格認定制度や推進員など、理念だけでは浸透しにくいのではないかと考えるので、具体的に進めていただきたい。</p>
事務局	<p>第5次総合振興計画を策定する際に、初めてロジック・モデルの考え方を取り入れた。その後、外部評価委員会において、ロジック・モデルシートを実装する際に、各部局においてマニュアルを参考にロジック・モデルシートの見直しを行ったところである。今後は、予算や人員、政策立案につなげていくことが必要であると感じているので、そのような場面でもロジック・モデルの考え方を活かせるように研修体制をはじめ、提案いただいた資格認定や推進員などの御意見も踏まえつつ検討していきたい。</p>
委員	<p>委員から提出された「行政評価制度の改善などに関すること」の検討をどのように進めていくかの計画が示されたとのことだが、検討には机上調査や小規模なサンプルで試験運用することなどが考えられる。例えば、資料1区分「行政評価制度について」の⑥において、評価後のフォローアップを検討する際に、1事業を選び、試験的に行ってみる方法もあるが、その検討結果や進捗状況などを当該委員会に報告してもらう場合は、ヒアリングを行う第4回及び5回以外の委員会で行うしかない。もちろん、試験運用を行わない検討方法もあるが、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>御意見のとおり検討方法については、予算編成の過程において、事業の方向性や課題を整理した上で、市長査定等に向け各種資料を作成しているところだが、最終的には、その議論の過程を国のようにロジック・モデルを活用しながら、ロジック・モデルで議論や検証された内容を予算化していくような形が望ましいと考えている。その段階まで進めていくに当たっては、庁内</p>

	<p>のコンセンサスを取りつつ、職員のスキル向上のための研修等が必要になると考えているが、現時点で、机上や試験運用などのどのような検討方法を用いて実施していくかについては、確定しておらず、検討を開始する段階に至ったところであり、1つの事業を選び試験的に実施する方法も踏まえつつ、検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>担当部門の熱意も重要だが、それ以上に、市としての熱意が表れるかどうか重要である。ロジック・モデルを作るだけで、形骸化してしまえば、意味がなく、どのように進めていくべきかという観点で考えていただきたい。そうでなければ、当委員会は単なる評価に終わってしまうので、施策の推進のためにどのようにするべきかという観点についても留意しつつ、検討を進めていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>昨年度の外部評価委員会を振り返ってみると、評価対象施策を担当する次長及び課長からヒアリングした際に、総合振興計画の施策の担当者というよりは、施策に紐づいている個々の事務事業を担当している立場であったと個人的に感じたところである。そして、施策と事務事業は、目的と手段の関係であり、目的を達成するための手段を選択しているというよりは、過去から継続的に行われてきた事業を管理しているという立場から説明されていたように見受けられた。</p> <p>さきほど、委員からも話があったように、外部評価委員会では、施策の担当者とのヒアリングを行うものと認識しているため、施策を推進するという当事者意識が必要であると考えます。また、施策単位になると取組が広範囲に及ぶため、他部局との連携など庁内の共創があつてしかるべきであるが、昨年度の外部評価委員会では、あまり見てとることができなかった。ロジック・モデルを導入したからといって、仕事の進め方がたちまち変わるというわけではないので、委員から話があったように行政経営の推進体制をしっかりと構築していく必要がある。そういった意味でも、各部署が自主的に創造性をもって取組を進めていくのは当然のこととして、総合振興計画を所管する共創企画課においても、推進体制を検討する必要があると考えます。国を例にあげると、EBPMの推進体制として府省に政策立案審議官等を配置するなど、人的な推進体制を敷いている。戸田市においても部長会を活用するな</p>

	<p>ど、ロジック・モデルが単なる絵に描いた餅にならないように研修、推進委員、資格制度など推進体制の構築を念頭に置きながらロードマップを組み立てていただきたい。</p> <p>研修については、第5次総合振興計画を策定する際に、部長をはじめ全庁的に実施されていたが、新型コロナウイルスが流行する前の話であり、人事異動等で担当者が交代した場合などもあるので、継続的な研修体制を整備していくことは重要なことであると、改めて認識したところである。また、委員の話であったように、検討といっても様々な手法があるので、外部評価委員会の場においても、検討状況等をフィードバックしていただきたい。</p>
委員長	<p>その他に意見や質問等はあるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
事務局	<p>(2) その他</p> <p>第2回戸田市外部評価委員会で、ヒアリング対象施策の選定を実施するため、今年度も事前アンケートを実施したい。</p> <p>今年度の選定方法は、市民委員にそれぞれ6施策を選定した上で、他の委員5名に3つずつ施策を選定していただきたい。その集計結果から委員会選定分(案)を作成する予定であることから、事務局から送付する回答シートに記入の上、提出いただきたい。</p>
委員	<p>第5次総合振興計画前期基本計画を開始した頃に、国の法令や市の条例改正等により、新たに開始した取組の割合が多く占める施策やいわゆる公共事業の分野など長期的な取組を行う施策など、施策によって状況が異なる。また、法令等の改正により事務を移管しただけで、ほとんど取組が変わらない場合や市が独自で開始した取組がある場合など、施策を選定する際の参考資料として、新規の取組等が分かるような補足や資料を提供いただくことは可能か。</p>
事務局	<p>施策に紐づく事務事業については、委員の御指摘のとおり国発信の事業や市独自の新規事業等があるが、新規の事務事業を参考資料として提供する形</p>

	で良いか。
委員	選定に当たり、施策の一覧を参考に検討することになるため、各施策の中にどのような新規の事務事業等があるか、分かるような資料をいただきたい。
事務局	資料を準備させていただく。
委員	国の事業については、市の裁量がない事業が多いと考える。そのため、市の独自事業と区別し、分かるようにしていただきたい。また、昨年度に評価対象となった施策は対象外ということでよいか。
事務局	御認識のとおりです。
委員長	意見や質問等はあるか。
委員一同	なし
	4 閉 会